

■NSTDA 新研究所を開設

タイ国立科学技術開発庁(NSTDA: National Science and Technology Development Agency)はアセアンにおける有機エレクトロニクス及びプリントド・エレクトロニクスのハブとなること目的に、タイ有機プリントド・エレクトロニクス・イノベーション・センター(TOPIC: Thailand Organic & Printed Electronics Innovation Centre)を設立した。民間セクターとの共同研究及び商品化の拠点とする予定。

所長は、NSTDA傘下の既存の研究機関である電子・コンピュータ技術センター(NECTEC: National Electronics and Computer Technology Centre)所長が兼任する。同じくNSTDA傘下である他3研究機関である遺伝子工学バイオテクノロジーセンター(Biotec: the National Centre for Genetic Engineering and Biotechnology)、金属材料技術研究センター(MTEC: the National Metal and Materials Technology Centre)、ナノテクノロジー研究センター(Nanotec: the National Nanotechnology Centre)への研究施設・資財の提供をするほか、民間企業に対するテラード研究や大学との橋渡しを行うことを視野に置いている。

(Nation 紙、4月10日)

■災害予知システムへの要請

2004年、タイ南部を津波が襲い多くの死者が出た。その頃、タイを津波が襲うことを予想している人間はいなかった。2012年4月のプーケットの津波の際、津波警報装置により多くの住民が迅速に避難することができたのは、高くついた教訓のおかげでもある。災害対策についての住民意識の向上が何よりも重要であるという。これに関連して、副首相で内務大臣兼任の Yongyuth Wichaidit は、内務省内に洪水・台風・地滑りオペレーションセンターを設置した。

(Nation 紙、5月6日)

■3地方大学へのサイエンス・パーク設置に80億パーツ

地域の特産品をベースにしたビジネス展開の支援を目的に、科学技術省は3つの地方にサイエンス・パークを設置することを計画しており、内閣に対し84億パーツの要求を提出した。サイエンス・パークは北部チェンマイ大学、東北部コンケン大学、南部プリンスオブソクラ大学への設置が計画されており、それぞれの地域特産とはつまり、北部の米、東北部の鶏肉、南部のゴムを示す。これらに関する研究開発・競争力強化が設置目的であり、2013年に26億パーツ、2014年27億パーツ、2015年31億パーツが、科学技術省の描く青写真。

北部サイエンス・パーク提唱者でありチェンマイ大学工学部長 Dr Sermkiat Jomjunyong 准教授は、サイエンス・パークが州政府、民間セクター、教育機関の連携地点となって地域経済を活性化し、科学技術を応用することで、「レッド・オーシャン(過当競争)」にある製品に付加価値を与え、「ブルー・オーシャン(ニッチ、独占的)」商品に替えることができるという。これは2015年にアセアン経済連合(AEC)を迎える北部地域にとって大きな力になると期待する。また、チェンマイ大学を拠点として、北部の7大学と30の工業部門・民間部門の連携も目指す。

この3年間のプロジェクトの中で、380以上の科学技術プロジェクトを設け、その中から少なくとも60の研究開発プロジェクトを選抜していくという。これに伴って560人の研究者の採用が期待されている。

(Nation 紙、5月8日)

■AITに関する噂

バンコク郊外パトインタニに所在するアジア工科大学院(AIT)は2011年10月の洪水により甚大な被害を受け、現在も復旧・復興の途上にあ が、そ

ロセスは緩慢であるとの批判を受けており、関連して以下のような噂が出ている。これに対し、AIT 同窓会長 Thanin Bumrungsap 氏が反論を展開。

1)AIT を現在の政府間組織(≒国際機関)から、過去の形に戻すという要請が上がっている

2)そのために、タイ国政府からの AIT 補助金が現在止められている。

3)補助金停止は、現在 AIT 内でクーデターが起きているからでもある。

4)補助金停止は現政権が政府間組織(≒国際機関)である意向を持っているからである。

AIT 同窓会長は、特に 4 番目について、タイ政界を侮辱するものであると指摘したうえで、補助金停止は、現在の新 AIT 憲章の中で、教育省高等教育委員会事務局 (Office of Higher Education Commission (OHEC) under the Ministry of Education) が AIT メンバーから外されており、それが補助金支給のための規則に反しているからであるとし、OHEC を代表とするタイ政府が AIT メンバーから外れているのは、タイ議会による認可が遅れているためであるとして、政府間組織(≒国際機関)としての地位の返上やクーデターの関与を否定している。

(Nation 紙、5 月 29 日)

■タイの教育水準はつるべ落とし

多大な教育予算にも関わらず、タイにおける教育の質は低下し続けている。研究・品質開発財団研究所所長によると、タイの学生の能力は、国際的なテストにおいて、1985 年の「良」から、1998 年には「可」、2000 年には「不良」へ低下しているという。マッキンゼー社の調査によると、特に基礎教育における識字能力及び計算能力の向上が求められるという。タイでは特に遠隔地の学生のスコアが低いという。「学生に薬を飲ませるだけでは何もならない」と、ランシット大学の Witayakorn Chiengkul 准教授は言う。政治経済、認識、行動など国全体をあげて認識を変えていく必要があるという。例えばベトナムにおいては、十分な教材のない学生でも数学・科学において満足のいく得点を得ているが、彼らは総じて勤勉で読書好きだという。

また、政府や首相による改革を待つのではなく、教員一人ひとりがよりよい教育法を求めて研さんを積んでいく姿勢が重要であることも説かれた。

(Nation 紙、6 月 20 日)